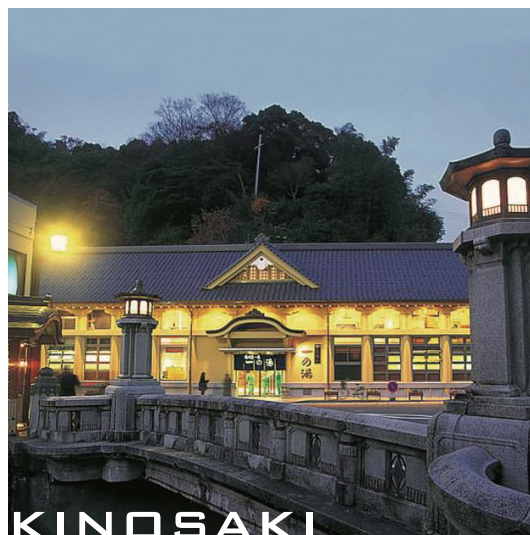




TAKENO



TOYOOKA



KINOSAKI

豊岡市 都市計画マスタープラン



HIPAKA



IZUSHI



TANTO

平成31(2019)年3月

豊岡市

あいさつ

みなさん、こんにちは。豊岡市長の中貝です。

近年、地球温暖化に代表される地球規模での諸問題、自然災害の大規模化と頻発化、人口減少や少子高齢化の進展など、わたしたちを取り巻く状況は決して明るいものばかりではありません。

わたしたちが暮らしている豊岡市も多くの問題を抱えていますが、コウノトリの野生復帰、環境農業の取り組みの拡大、山陰海岸ジオパークの再認定、ラムサール条約湿地のエリア拡張など、コウノトリも住める環境と経済の相乗効果による活性化が着実に進展しています。また、地域コミュニティの形成に代表される地域社会の変革や、専門職大学の設置、アーティスト等の移転・移住など、新たな取り組みも始まっています。

平成17(2005)年の行政合併以来、「コウノトリ悠然と舞う ふるさと」をめざすまちの将来像として、固有の自然や歴史・文化などを守り育てながら、一貫してオンリーワンのまちづくりを行ってきました。その後、平成29(2017)年に策定された基本構想では、「小さな世界都市 -Local & Global City-」を目標にまちづくりを進めています。

平成20(2008)年に策定した都市計画の基本的な方針である「豊岡市都市計画マスタープラン」も策定後10年が経過し、この間の社会情勢の変化や新たな基本構想の策定などを機に、この度見直すことといたしました。この方針は、市民のみなさまからのご意見や、庁内策定委員会などで検討を重ねて策定したもので、20年先のまちの姿を展望しつつ、向こう10年間の土地利用や交通、防災、景観などについて定めています。

今後、この方針に基づいて市民のみなさまと行政が協働してまちづくりに取り組んでいくことにより、将来の世代への責任を果たしながら、「地域の特性を活かした生活拠点が結ばれ、安全に安心して暮らせるまちづくり」を実現するように、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

平成31(2019)年3月

豊岡市長 中貝 宗治



目次

| | |
|-------------------------------------|--------|
| 第1章 都市計画マスタープランについて | 1 |
| 1 都市計画マスタープランの位置づけ | 1 |
| 2 計画の対象と構成 | 3 |
| 第2章 豊岡市の概要 | 5 |
| 1 豊岡市の現況 | 5 |
| 2 市民のまちづくりに関する意識 | 29 |
| 3 まちづくりの現状及び課題 | 39 |
| 第3章 まちの将来像及びまちづくりの基本方針 | 41 |
| 1 まちづくりの考え方と視点 | 41 |
| 2 まちの将来像と目標 | 42 |
| 3 まちづくりの基本方針 | 45 |
| 第4章 全体構想 | 48 |
| 1 土地利用の方針 | 48 |
| 2 施設整備（公園、下水道、河川、公共施設等）の方針 | 52 |
| 3 拠点整備の方針 | 58 |
| 4 景観形成の方針 | 61 |
| 5 防災の方針 | 64 |
| 6 地域環境形成（自然環境、生活環境）の方針 | 67 |
| 7 交通網の方針 | 69 |
| 8 コミュニティの方針 | 72 |
| 第5章 地域別構想 | 73 |
| 1 地域別構想の考え方 | 73 |
| 2 地域づくりの方針 | 74 |
| (1) 豊岡地域 | 74 |
| (2) 城崎地域 | 78 |
| (3) 竹野地域 | 82 |
| (4) 日高地域 | 86 |
| (5) 出石地域 | 90 |
| (6) 但東地域 | 94 |
| 第6章 マスタープランの実現化方策 | 98 |
| 1 マスタープランの実現化に向けた取組みの推進方策 | 98 |
| 2 参画と協働のまちづくりの推進 | 100 |
| 3 まちづくりを支援する制度等の活用 | 101 |
| 参考資料 | |
| 1 上位・関連計画の整理 | 参考 - 1 |
| 2 豊岡市都市計画マスタープランの策定経緯 | 参考 -17 |
| 3 豊岡市都市計画マスタープランの策定体制 | 参考 -19 |
| 4 用語解説 | 参考 -20 |